

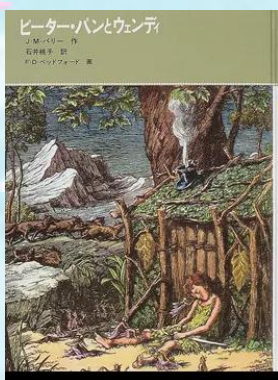
～洛西からの一読～

今回のテーマは「旅立ち」

季節はめぐり、日差しがあたたかく感じはじめています。卒業・進級を迎える人、新しい生活を迎える人などこの時期は忙しそうです。今までいた場所から新しい何かが始まる予感がしています。どこに向かっていくのか不安もありますがすばらしいときを過ごして欲しいものです。

ピーター・パンとウェンディ

J.M.バリ著 石井桃子訳 福音館書店



ロンドンのケンジントン公園の近くに住むダーリング家の長女ウェンディと弟のジョンとマイケルは、永遠に大人にならないピーター・パンに出会います。ある夜、3人の子どもたちは、ピーターに誘われてネバーランドへ冒険の旅に出てしまいます。ネバーランドには迷子の男の子たちがおり、その子どもたちの世話をウェンディがすることになったのです。迷子の子どもたちは、ウェンディからお話を聞くことが楽しみでした。ネバーランドには、迷子の子どもをねらう海賊、海賊をねらう原住民、原住民をねらう動物が島をぐるぐるまわっていたのです。ピーターたちと海賊キャプテン・フックは因縁の戦いを繰り返していました。ネバーランドでの生活はハラハラドキドキで、子どもたちが大活躍しています。やがてネバーランドでの問題が解決すると、3人の子どもたちは自分たちの家に帰る時がやってきました。子ども時代からの旅立ちを迎えるのです。子どもの時に、子どもらしく過ごせることはとても大切です。すばらしい子ども時代を十分に楽しみ味わえた体験が苦しみや試練を乗り越える力を蓄えているのかもしれない。

すばらしいとき

ロバート・マックロスキー著 わたなべ しげお 訳 福音館書店



ペノブスコット湾には小島が点在しています。その島の一つに避暑としてバカンスを楽しんでいる家族がいました。海辺にボートを浮かべ、林の中で小鳥たちの声を聞き大地から伸びようとする草の息吹を感じる子どもたちはのびのびと明るく楽しい時を過ごしていました。夜になると満天の星空を仰ぎ、日が昇ると煌めく太陽のもとで水遊びを楽しむ。なんて素晴らしい日々だろう。嵐が通り過ぎた時は怖かったけれど、そのあと片付けにも心は踊っていた。やがてこの地を離れる時、子どもたちはこの「すばらしいとき」を心に残して旅立っていくのです。